

平成27年度 同好会事業報告

俳文学同好会 世話係名 館林 弘毅 会長名 鶴田順子

月 日	実施した事業内容	参加人員
8月1日	夏期講習会 小布施町浄光寺 吟行と句会	6名
11月28日	小布施町ハイウェイオアシス 吟行と句会	5名

本年度の俳文学同好会は、六名の会員でスタートしました。主な活動は、吟行と句会です。毎日、仕事に追われ慌ただしく生活している中で、吟行・句会の時だけは、周りの自然を眺めながら穏やかに過ごすことができます。このような時間を過ごすことができる楽しさを同好会の度に感じています。

一回目は、八月一日、小布施町の浄光寺に吟行に行き、栗ガ丘小学校で句会を実施しました。同好会でいつもお世話になっている「雉子」主宰の田中保先生を講師にお迎えして行いました。

浄光寺では、季語を田中先生に教えていただきながら散策しました。浄光寺の薬師堂は重要文化財です。薬師堂を目指して石段を歩きながら、思いを巡らせることができました。小動物や昆虫、いろいろな植物があり、材料にさせていただきました。岩松院にも行きました。蛙合戦の池を見て、小林一茶の俳句に思いを致しました。池には蛙ではなく蜻蛉が多く飛び交い、蜻蛉合戦かと思いました。

二回目の句会は、十一月二十八日、小布施ハイウェイオアシスに吟行に行き、栗ガ丘小学校で句会を行いました。

十一月は暖かい日が続いていましたが、この週より急に寒くなり、会員皆で「寒い、寒い。」と言いながら、ハイウェイオアシスを歩きました。木々は葉を落とし、遊具で遊ぶ子の姿はほとんど見られませんでした。また、そんな中噴水が水しぶきをあげているのを見て、一層寒さを感じました。一方、池では鴨や鯉が勢いよく餌を食べていて、公園の静かさとの対比を感じました。冬ならではのいろいろな材料を見つけ、やはり寒くても吟行しないと俳句は作れないなと思いました。

句会の度に、自分の語彙力の無さを感じます。それでも、自分なりにどんな言葉がい
いか考え、辞書を引き、それでもうまく表現できない時は言葉を教えていただき、考え
た句を添削していただくと、何とか俳句をつくることができます。ご指導いただきなが
ら、また、吟行、句会をしていきたいなと思いました。

(会長 鶴田 順子)